

国内肥料資源の利用拡大に向けて

令和6年9月5日（木）
九州地域国内肥料資源利用拡大ネットワーク
第2回勉強会 農林水産省説明資料

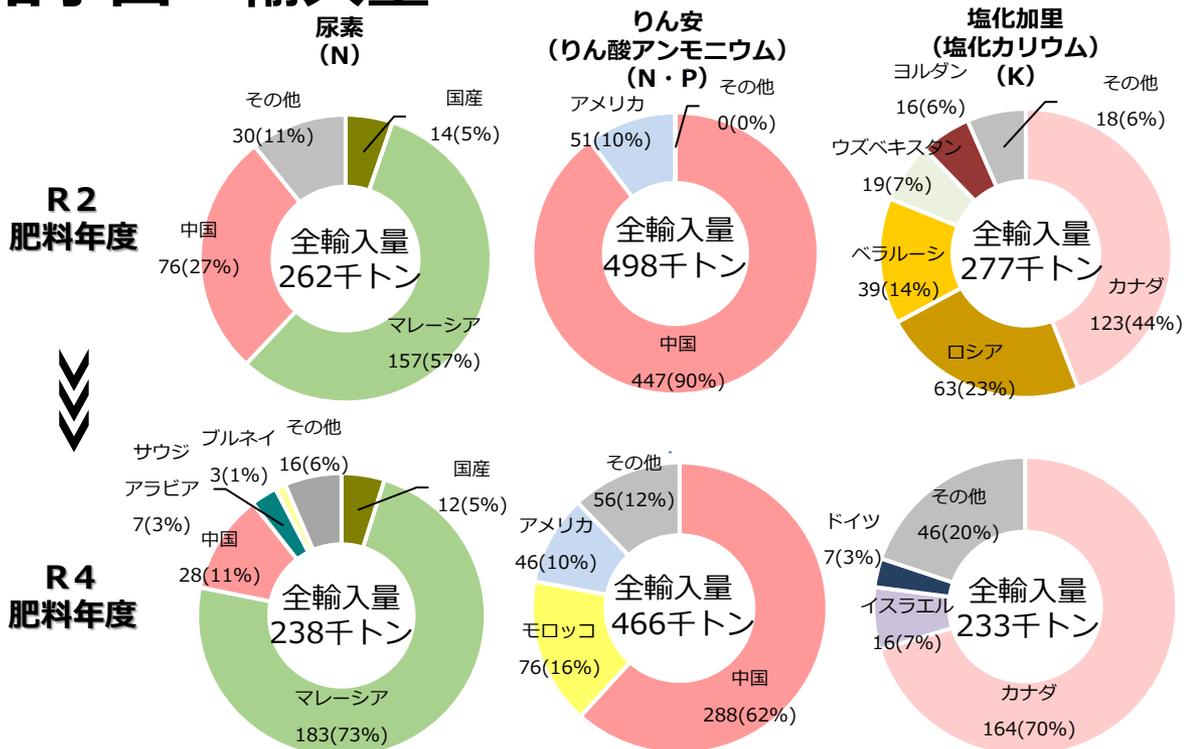


農林水産省

化学肥料原料の輸入相手国・輸入量

- 主な化学肥料の原料である尿素、りん安、塩化加里は、ほぼ全量を輸入。世界的に資源が偏在しているため、輸入相手国も偏在。

- 令和3年秋以降、中国による肥料原料の輸出検査の厳格化のほか、ロシアによるウクライナ侵略の影響により、我が国の肥料原料の輸入が停滞したことを受け、代替国から調達する動き。

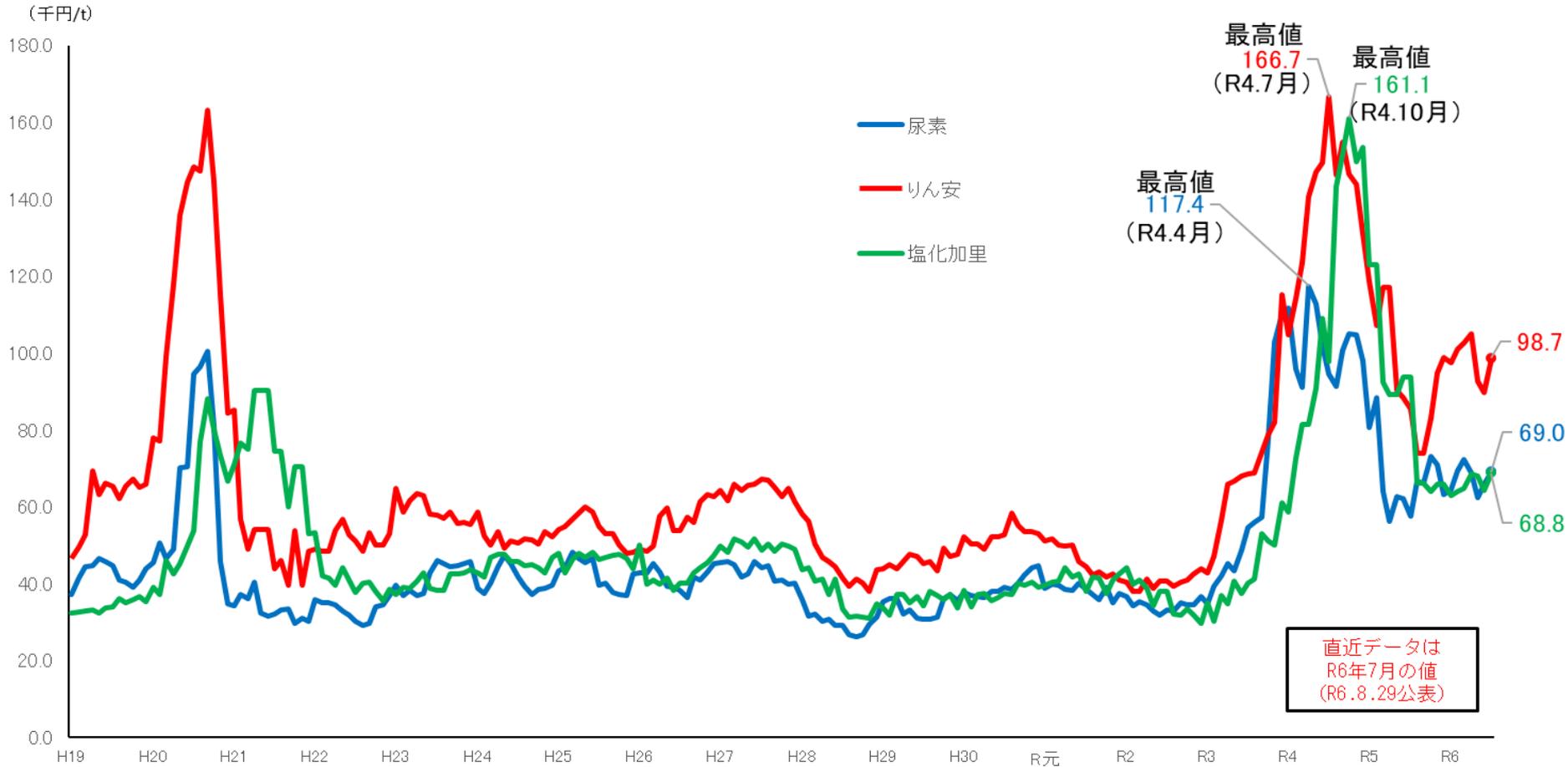


資料：経済安全保障推進法第48条第1項の規定に基づく調査結果をもとに作成（工業用仕向けものを除く。）。

注：1）「その他」には、輸入割合が1%未満の国の他、財務省関税課への非公表化処理申請に基づき貿易統計上非公表とされている国を含む。

2）全輸入量には、国産は含まれない。

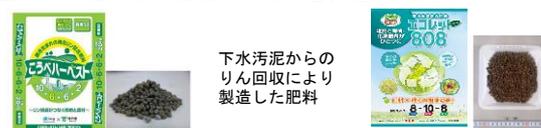
肥料原料の輸入価格の動向



注：財務省貿易統計における各月の輸入量と輸入額をもとに、農林水産省において作成。
月当たりの輸入量が5,000t台以下の月は前月の価格を表記。

肥料対策の全体像

令和3年の肥料原料の輸入の停滞や輸入価格の上昇を受け、国内資源の活用、原料の安定調達、価格急騰対策の観点から肥料対策を構築。

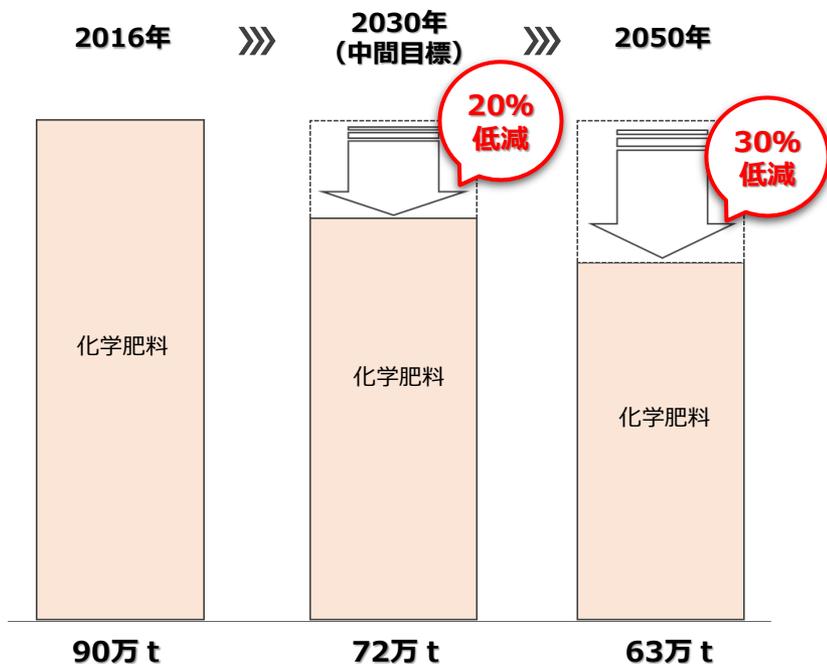
	肥料対策	具体的な対応
国内資源活用等	<p>堆肥や下水など肥料成分を含有する国内資源の利用拡大・広域流通</p> <p>肥料の適正施肥</p> <p>国内外の肥料原料価格等の動向把握</p> <p>原料価格が急騰し、小売価格の急騰が見込まれる場合、影響緩和対策を実施</p>	<p>○ 国内肥料資源利用拡大対策等 (R4補正:100億円、R5補正・R6当初:64億円の内数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耕畜連携の取組や国内資源利用技術の普及に向けた支援 ・ 堆肥センター、ペレット工場、広域流通・保管施設等の整備 ・ 国内外の肥料原料価格等の動向を把握する調査  <p>下水汚泥からのりん回収により製造した肥料</p> <p>堆肥と化学肥料を混合した肥料</p>
	安定調達	<p>資源外交をはじめとする調達国の多角化対応</p> <p>輸入肥料原料の備蓄 (経済安全保障推進法に基づく備蓄制度)</p> <p>調達困難時の備蓄放出 (原料価格上昇の影響緩和)</p>
価格急騰対策	<p>肥料コスト上昇分の一部を補填する対策</p>	<p>○ 肥料価格高騰対策事業 (R4予備費:788億円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化学肥料の使用量低減に向けた取組を行う農業者に対し、肥料コスト上昇分の7割を支援 (令和4年度秋用肥料、令和5年度春用肥料を対象) ・ 食料安全保障強化政策大綱 (令和5年12月27日改定) <p>肥料の価格高騰時の対応として、平時より通関における肥料原料価格等を調査し、同価格が急騰し、肥料小売価格の急騰が見込まれる場合は、これまでに実施した肥料価格高騰対策の仕組みや効果等を踏まえて影響緩和対策を実施する。</p>

政府の取組目標・今後の政策の展開方向

みどりの食料システム戦略（抄）

（令和3年5月12日、令和4年6月21日みどりの食料システム戦略本部決定）

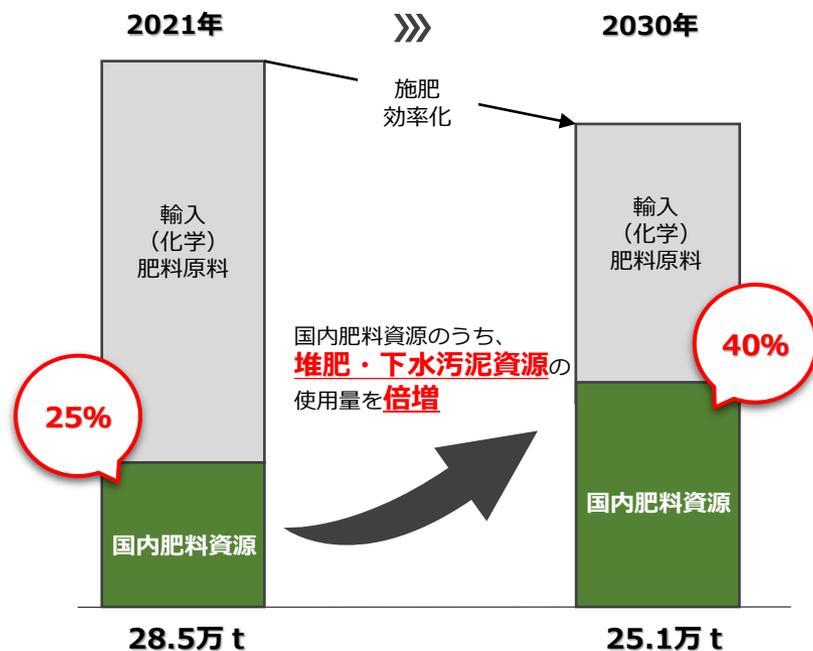
2050年までに、輸入原料や化石燃料を原料とした**化学肥料の使用量を30%低減**。（成分ベース（NPK））



食料安全保障強化政策大綱（改訂版）（抄）

（令和5年12月27日食料安定供給・農林水産業基盤強化本部決定）

2030年までに、堆肥・下水汚泥資源の使用量を倍増し、**肥料の使用量（リンベース）に占める国内資源の利用割合を40%まで拡大**。



改正食料・農業・農村基本法（第42条）

（農業資材の生産及び流通の確保と経営の安定）

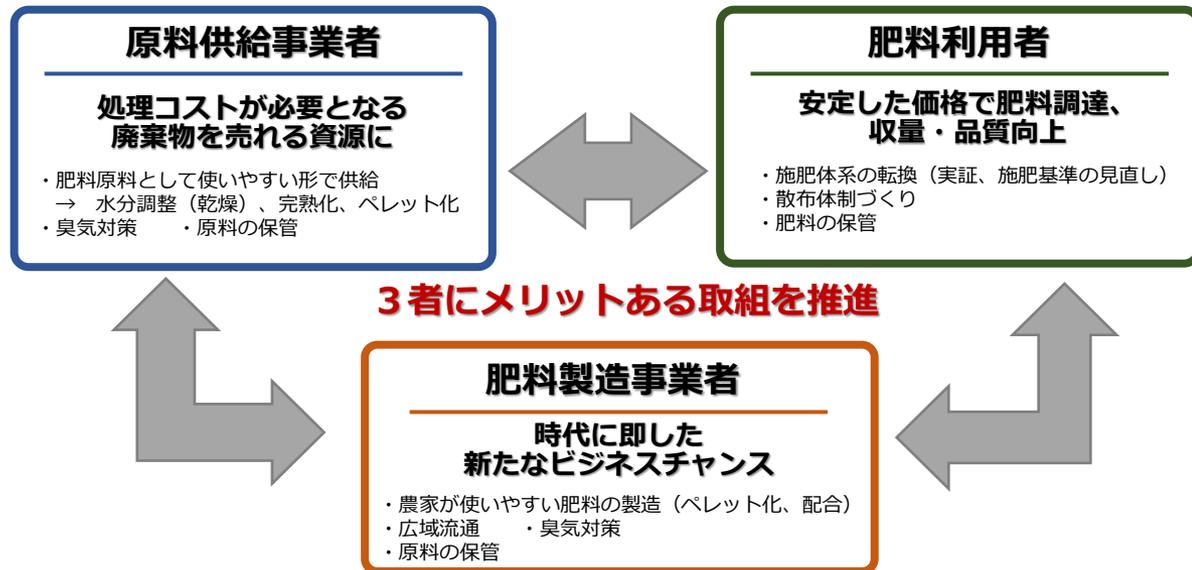
第42条 国は、農業資材の安定的な供給を確保するため、輸入に依存する農業資材及びその原料について、国内で生産できる良質な代替物への転換の推進、備蓄への支援その他必要な施策を講ずるものとする。

2 国は農業経営における農業資材費の低減に資するため、農業資材の生産及び流通の合理化の促進その他必要な施策を講ずるものとする。

3 国は、農業資材の価格の著しい変動が育成すべき農業経営に及ぼす影響を緩和するために必要な施策を講ずるものとする。

国内資源の肥料利用の拡大に向けた対応方向

- ✓ 国内資源の肥料利用や取組の定着に当たっては、**原料供給事業者、肥料製造事業者、肥料利用者が連携した取組が不可欠。**
- ✓ **これら3者それぞれにメリットのある形での連携した取組を推進し、各地域の状況に応じた多様な取組を創出。**



「農家が使いやすい、使いたくなる国内資源由来肥料」の例



高品質な堆肥

- ・ 水分含量が低く、臭いも少ない
- ・ 作物生育への悪影響が少なく、散布しやすい



ペレット肥料

- ・ ペレット化され、広域流通可能
- ・ 農家が持っている散布機（ブロードキャスター）で撒ける



有機入り複合肥料

- ・ 成分が調整されており、化成肥料の代わりに使える
- ・ BB肥料などで各品目のニーズに合った肥料が製造できる

令和5年度補正予算 国内肥料資源利用拡大対策事業

肥料の国産化・安定供給確保対策のうち 国内肥料資源利用拡大対策事業

【令和5年度補正予算額 5,600百万円】

<対策のポイント>

肥料の国産化に向けて、畜産由来の堆肥や下水汚泥資源などの国内資源の肥料利用を推進するため、**肥料の原料供給事業者、肥料製造事業者、肥料利用者の連携づくりや施設整備等を支援**します。

<事業目標>

肥料の使用量（リンベース）に占める国内資源の利用割合を拡大（40%〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

1. 施設整備等への支援

堆肥等の高品質化・ペレット化など、広域流通等に必要施設整備等への支援を行います。

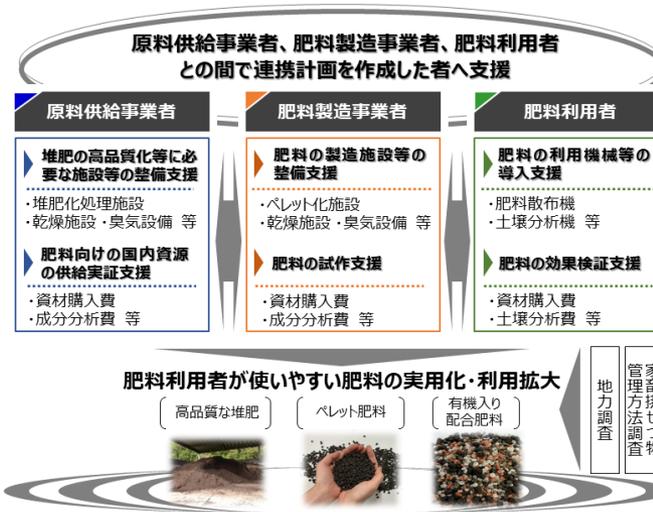
2. 国内資源の肥料利用拡大の取組への支援等

ほ場での効果実証の取組や機械導入、関係事業者間のマッチングや現地指導等への支援などを行います。

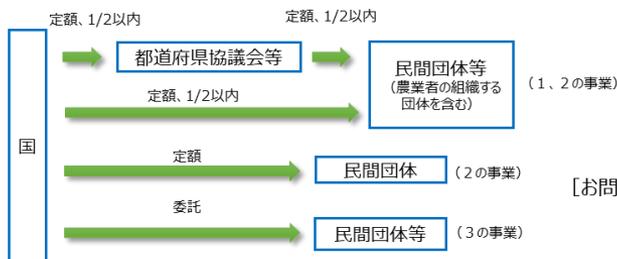
3. 国内資源の肥料利用拡大に向けた調査

国内資源の肥料利用の効率化に必要な全国の土壌養分等の状況や家畜排せつ物の管理方法の実態等を調査します。

<事業イメージ>



<事業の流れ>



【お問い合わせ先】

(1, 2の事業)	農産局	技術普及課	(03-6744-2182)
(2, 3の事業)		農業環境対策課	(03-3593-6495)
(1, 2, 3の事業)	畜産局	畜産振興課	(03-6744-7189)

支援内容

✓ 国内資源由来肥料（※）の利用拡大に当たって、関係事業者が抱える課題の解決に必要な取組を支援します。

原料供給事業者

農家や肥料製造事業者が使いやすい肥料や肥料原料の安定供給に向けた体制づくりを支援します。

堆肥の高品質化

堆肥の水分調整、発酵、調整等に必要な施設の整備・改修や機械導入等への支援が可能です。



ペレット化による肥料メーカーへの供給、広域流通

ペレット化設備の導入や、新たな流通方法の検討に必要な運搬費等への支援が可能です。



肥料・肥料原料の成分分析

分析機関への外注、検査機器の導入等への支援が可能です。



肥料製造事業者

肥料利用者が使いやすい国内資源由来肥料の製造・供給体制づくりを支援します。

新たな肥料の試作

肥料試作に必要な肥料原料の購入、成分の分析、施肥効果の検証等への支援が可能です。



製造・配合などの施設整備

製造施設の整備やライン増設、臭気・衛生対策に必要な設備の導入等への支援が可能です。



流通体制の整備

原料や肥料の保管に必要な施設の整備、原料等の運搬に係る実証等への支援が可能です。



肥料利用者

国内資源由来肥料への転換に必要な新たな肥料の効果検証の取組や散布機の導入等を支援します。

生産現場での新たな肥料の導入や効果の検証

栽培実証に必要な新たな肥料の購入に係る経費、土壌分析、研修会の開催等への支援が可能です。



散布機の導入

マニュアルスプレッダやブロードキャスト等の散布機導入の支援が可能です。



【事業実施の前提】原料供給事業者、肥料製造事業者、肥料利用者との間で「連携計画」を作成

※：国内資源由来肥料：「肥料の品質の確保等に関する法律」に基づき登録若しくは届出がなされたもの又は登録若しくは届出されることが見込まれるものとします。

国内肥料資源の利用拡大に向けた取組

関係者の機運の醸成

(国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会)

- 国内肥料資源の利用拡大に向け、原料供給事業者、肥料製造事業者、耕種農家等の関係者が一堂に会し、取組方針等を共有し機運を醸成するほか、関係者が連携した取組を推進するため、全国推進協議会を設立。（令和5年2月）



会員

国内肥料原料供給者、肥料製造事業者、肥料利用者、関係団体、研究機関、地方公共団体、関係府省庁であって、協議会の設立趣旨に賛同する者。（令和6年8月20日時点：424会員）

幹事会

会員の中から選出する幹事を構成員とする幹事会を設置。

協議会の具体の活動内容等を検討。

- （一社）全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、
- （一社）日本有機資源協会、（公社）中央畜産会、
- （一財）畜産環境整備機構、（公社）日本下水道協会、
- （一社）全国肥料商連合会、（公社）日本農業法人協会

【事務局長】農林水産省 生産振興審議官

広域的な連携の取組サポート

事業者間のマッチング機会（国内資源利用体制の構築）の場を提供し、新たな連携づくりをサポート。

生産現場での利用拡大に向けた取組を推進

各地の先行事例等を基に、国内資源由来肥料の導入メリットを広く情報発信するとともに、取組のポイントや生産現場での導入に当たって留意すべき事項等を取りまとめ横展開を図り、生産現場における国内資源の肥料利用の拡大に向けた取組を推進。

先進事例の横展開・関連情報の提供

農水省HPにおいて、関連施策情報のほか、会員からの情報を随時受け付け、多様な関係者による取組に関する情報や知見をタイムリーに発信。

広域的な連携の取組のサポート① (マッチングの取組)

- 関係事業者間の連携づくりの契機となるよう、関係事業者のニーズ等に関する情報を一元的に収集し、互いに閲覧できるマッチングサイトを開設。(令和4年12月)
- 併せて、関係事業者間の実際の交流機会の場として、マッチングフォーラムを開催。
令和6年度は、秋には中国四国管内で、冬には北海道管内で開催を予定。



農林水産省

English ホーム サイトマップ 文字サイズ 標準 大きく

逆引き検索から探す 総務局から探す キーワードから探す Google 検索

会見・報道・広報 政策情報 統計情報 申請・お問い合わせ 農林水産省について

ホーム > 農業生産資材対策情報 > 肥料関係情報 > 国内資源の肥料利用の拡大について > 国内肥料資源の利用拡大に向けた関係事業者間のマッチング支援の取組について

国内肥料資源の利用拡大に向けた関係事業者間のマッチング支援の取組について

1.目的

海外からの輸入原料に依存した肥料から、堆肥や下水汚泥資源等の国内資源を活用した肥料への転換を進める取組を推進するためには、肥料原料の供給者、肥料の製造事業者、肥料の利用者の間での連携が不可欠です。

このため、これら関係事業者の連携づくりの契機となるよう、関連事業者のニーズ等に関する情報を一元的に収集し、互いに閲覧できるマッチングサイトを開設します。

2.情報登録のお願い

肥料原料の供給事業者、肥料の製造事業者及び肥料の利用者(生産者団体、耕種農家等)の皆様におかれましては、事業者情報やそれぞれのニーズ等に関する情報について、下記のリンク先から登録してください。(既定のフォーマットに入力いただくことで情報が登録されます。)

- 肥料原料の供給事業者(産産事業者、下水事業者等)
- 肥料の製造事業者(肥料メーカー等)
- 肥料の利用者(生産者団体、耕種農家等)

広域的な連携の取組のサポート② (マッチングフォーラムの開催)

- 肥料原料供給事業者、肥料メーカー、肥料利用者、肥料販売事業者、肥料関係機械メーカー、自治体、JAグループ等幅広い業界の関係者が一堂に会す「国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラム」を開催。
- マッチングフォーラム当日は、学識経験者等による基調講演や肥料資源別の先行事例の話題提供をはじめ、交流会では肥料サンプルや商品紹介パネル等を展示するなど関係者間の交流の場を提供。

【マッチングフォーラムの様相】



(in九州の様相)

【マッチングフォーラムの開催実績・開催見込み】

令和5年	6月29日	第1回：マッチングフォーラム in東京	(東京都大田区産業プラザPiO小展示ホール)
	9月20日	第2回：マッチングフォーラム in九州	(熊本県上益城郡 グランメッセ熊本 展示ホールD)
令和6年	1月31日	第3回：マッチングフォーラム in東北	(宮城県仙台市 みやぎ産業交流センター本館展示棟 展示ホールC)
	3月1日	第4回：マッチングフォーラム in東海	(愛知県名古屋市 名古屋国際会議場 イベントホール)
令和6年	9月25日	第5回：マッチングフォーラム in中国四国	(広島県立広島産業会館 東展示館)
	12月4日	第6回：マッチングフォーラム in北海道	(調整中 (札幌市内の予定))

生産現場での利用拡大に向けた取組を推進 (国内肥料資源推進ロゴマーク)

- 国内肥料資源の利用拡大に関する取組をさらに促進するため、全国推進協議会の会員企業が利用できるロゴマークを新たに作成。
- ロゴマークは会員企業が掲載する関連ウェブサイトや広報活動資料、生産・販売する国内資源由来肥料に貼付して利用することが可能。



イ【全国推進協議会会員名】は、国内肥料資源の利用拡大を応援します/しています
 □【全国推進協議会会員名】は、国内肥料資源の利用拡大に賛同しています
 のいずれかの表現を一体として記載する。

広報活動への利用
(パンフレットやHP等への掲載)



HP、webサイト



名刺



パンフレット

肥料包装（肥料袋）への貼付



肥料に貼付する場合：対象とする肥料①～⑫

① 特殊肥料	⑥ 混合堆肥複合肥料
② 汚泥肥料	⑦ 混合汚泥複合肥料
③ 食品残さ加工肥料	⑧ 指定複合肥料
④ 有機質肥料	⑨ 指定化成肥料
⑤ 回収リン	⑩ 特殊肥料等入り指定複合肥料
	⑪ 土壌改良資材入り指定複合肥料
	⑫ 菌体りん酸肥料

国内資源由来肥料

+ 化学肥料 →

【ロゴマークの利用に当たって】

- ① 国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会の会員（無料）であること
- ② 国内肥料資源推進ロゴマークの利用申請を行い、許諾を得ること
- ③ 肥料包装へロゴを貼付したり、肥料のチラシにロゴを掲載する場合にあっては、対象となる肥料で、必ず国内資源が含まれる肥料であること



全国推進協議会への
入会案内HP



ロゴマーク利用の
申請案内HP

先進事例の横展開・関連情報の提供 (国内資源由来肥料の活用事例の紹介)

■ 全国各地の多様な主体による国内資源由来肥料の活用事例を、3つの国内肥料資源（1. 家畜ふん、2. 下水汚泥資源、3. その他（食品残渣等））別に収集し、現在、102事例を公表しています。

農林水産省

English ミニサイト サイトマップ 文字サイズ 標準 大きく

逆引き事典から探す 組織別から探す キーワードから探す Google 検索

会見・報道・広報 政策情報 統計情報 申請・お問い合わせ 農林水産省について

ホーム > 農産 > 農業生産資材対策情報 > 肥料関係情報 > 国内資源の肥料利用について > 国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会について > 先進事例の横展開・関連情報の提供

先進事例の横展開・関連情報の提供

本ページでは、国内肥料資源の利用拡大に関する会員の皆様からの情報を随時受け付け、多様な関係者による取組に関する情報や知見をタイムリーに発信します。

国内資源由来肥料の活用事例集

全国各地の多様な主体による国内資源由来肥料の活用事例を、3つの国内肥料資源（1.家畜ふん、2.下水汚泥資源、3.その他（食品残渣等））別に収集し、公表しております。

- 1.家畜ふん(49事例) **リンク先**
- 2.下水汚泥資源(29事例) **Now!**
- 3.その他(食品残渣等)(24事例) **Now!**

国内資源由来肥料の活用事例集（1.家畜ふん）

- 1-1: 全国のJA初！特殊肥料等入り指定混合肥料（JA佐久浅間・全農長野・朝日アグリ株式会社）(PDF: 637KB)
- 1-2: 鶏ふんを原料にした発酵鶏ふん肥料（JA主農のつしま）(PDF: 597KB)
- 1-3: 家畜ふん堆肥を原料にした堆肥入り粒状複合肥料（BB肥料）（JA宮崎経済連）
- 1-4: 混合ペレット肥料の製造、広域流通の実証（JA鹿児島経済連）(PDF: 600KB)
- 1-5: 生産現地の土壌実態に即した混合堆肥複合肥料（岡山県農林水産総合センター、三興株式会社）(PDF: 577KB)

国内肥料資源別に掲載

各事例の取組を1枚に取りまとめて紹介

1-1 全国のJA初！特殊肥料等入り指定混合肥料
(JA佐久浅間・全農長野・朝日アグリ株式会社)

長野県 2023年7月時点
牛ふん ペレット 県内 広域流通

JA佐久浅間は、2002年以降、管内乳用牛の排せつ物を堆肥化し販売。2022年4月からは、管内の牛ふん堆肥である「もちつき有機」を30%含むペレット型の指定混合肥料「望ちゃん」、2023年からは牛ふん堆肥をペレット化した「もちつき有機ペレット」を販売。

国内資源の種類 ■ 肥料の種類・肥料名称 ■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

A佐久浅間製堆肥（牛ふん、鶏ふん、動物性残渣、糠わら、ミミガラ）米ぬか

■ 特殊肥料等入り指定混合肥料「望ちゃん」
■ 堆肥「もちつき有機ペレット」

取組の経緯
・農家の利便性向上のため、2002年から販売していたバラ堆肥のペレット化を朝日アグリに相談し、検討の中で、化学肥料と堆肥を1面できれいな指定混合肥料を製造することとし、堆肥30%入りの「望ちゃん」を2022年9月に発売し、JA佐久浅間及び全農長野で販売を開始した。
・同年に「みどりの食料システム法」の基礎確立事業実施計画の認定を受け、JA佐久浅間と全農長野と佐久市が事業実施主体となり、持続可能な循環型農業を広げるために、地元資源を活用した「もちつき有機ペレット」を2023年3月に製造販売を開始した。

取組の内容
・2023年春肥用注文書に「望ちゃん」を記載し本格的に販売を開始した。
また、ペレットマシンと乾燥機を新たに設置することで堆肥のペレット化を達成。

産果（見込み）
・キヤベツを用いた「望ちゃん」の栽培実証時、現行使用している化学肥料（10-13-12）（14-14-14）と比較した結果、成分比で同量の肥料散布で収穫時期や収穫量など遜色なく生育し、施肥コストは10a当たり最大で約4,750円削減。

■ 今後の課題・取組
増産に向けて
①導入・散布面積の増加（専用の散布機を必要とせず施用）。
②低コスト化及び臭気の緩和。
③適当な乾燥温度の設定。

取組主体と肥料利用までの流れ

資源供給者 肥料製造者 肥料利用者

畜産農家（JA佐久浅間管内：5件） → 堆肥センター → 朝日アグリ株式会社（埼玉県児玉郡） → JA佐久浅間 → 農家（JA佐久浅間管内：3,000戸）

製造委託

リンク先

国内肥料資源利用拡大対策事業による取組 <九州地域抜粋>

令和4年度補正予算 事業実施計画書を基に農林水産省において作成

(注：県の区分は、事業実施場所と一致しない場合があります。)

主な国内肥料資源

家畜ふん

食品廃棄物

下水汚泥

木材

その他

